

# スマイル タウン

第335号

2025.12  
発行

**ひの社会教育センター** は、市民のみなさまの  
“やりたい”を実現し、「豊かなくらし」を応援する  
施設として、1969年に日野市と勤社会教育協会が  
協定書に基づいて設立しました。  
今月もセンターで生きがいがつくりをされる沢山の  
市民の方々の活動をお伝えします。

## 社会教育協会 100 周年記念イベント



## これまでの歩み これからの 100 年へ！

- 対談コーナー「わたしたちの社会教育」
- 社会教育コラム（社会教育協会より）
- ひの社会教育センターからのご案内・賛助会・寄付お礼等

## 「わたしたちの社会教育」⑥

職員同士の対談形式で『わたしたちの社会教育』を語ります。今年度は、職員研修の際に各職員が何に取り組み1年にするか年度目標を語った中から、手掛け、育てている事業の話をします。

職員として、様々な環境、状況の中、悩みや葛藤を抱えながら、その意義や価値、成果を期待し、目標に進むありのままをお伝えし、社会教育施設の存在意義についても考えていきます。また、社会教育協会理事の荒井文昭さん（前・東京都立大学人文社会学部人間社会学科教授）にも同席していただき、荒井さんの視点から講評をいただきます。

今号はひの社会教育センター職員若泉将貴に子育て支援カフェモグモグ（日野市から受託運営）の職員・栗澤雅富美が話を聞きます。

### 第6回テーマ「冒険教育」

#### 『冒険教育』の位置づけ

栗澤…まずは冒険教育とは、たとえばどんなことですか？

若泉…ひの社会教育センターのアウトドア活動の一環として行うものと捉えていて、手法として冒険的要素を取り入れて取り組んでいるという考え方です。

例えば、山にテントを張り、宿泊を伴う登山プログラムの中で、自分たちの能力だけを頼りに登って降りてくる計画を立てます。その遠征では、自然そのものが相手となるため、活動自体が課題となり、問題や想定外の出来事が起こります。そうした出来事の一つ一つが、チームとして向き合うべき課題になります。

それらに対して、どのように自分たちで問題解決をしていくかという点が焦点になります。山に登ること自体が目的ではなく、登山活動の中で問題解決する力や、チーム内でのコミュニケーションがキーポイントになります。

たとえ山頂に到達できなかったとしても、なぜ行けなかったのかを振り返り、次に活かすために何ができるのかを考えることこそが、教育として重要な視点です。

そうした経験を通して、それを自分自身の価値観へと変えていくところに、「冒険教育」の大切な意義があると考えています。

栗澤…呼び方として「冒険学習」「冒険体験」でもいいの？なぜ「冒険教育」なんだろう？と思っていました。自分たちで問題解決をするとか、自分「たち」というところが、コミュニケーションや学習という部分で、自分「だけ」ではなく、誰かと一緒に、というところが重要なだと納得しました。

若泉…キャンプなどの活動は、すべて他者や相手が存在し、その相手とどのように協働するかという視点が重要になります。もし一人で行うのであれば、それは「冒険家」と言えるでしょう。共同体の中で、さまざまな人と複数人でコミュニケーションを取ること、相手がいて自分がいるという関係性そのものが、教育において大切な要素だと考えます。

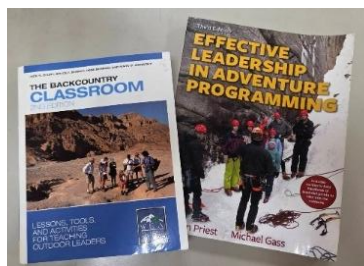
冒険教育の分野には、そうした集団力学に関する視点もあれば、集団の状況に応じて自分のリーダーシップを変えていくという考え方もあります。「リーダーシップ」という言葉は、先頭に立つて指導する人を想像されがちですが、その發揮の仕方によってチームのパフォーマンスが変わり、実は誰もが持っているものだという気づきがあります。

#### 実体験として得たもの

栗澤…聞いていると確かに、他者の中で人が育つ力をつけるために大切なことだな、と伝わります。若泉さん自身が変わったことはありますか？

若泉…僕自身、これまでさまざまな資格研修を受けてきましたが、その中でも最も理論的で実践的だったと感じているのが、WEAJ※が実施している野外指導者養成講習会です。

自分自身が冒険教育を実際に体験しながら、理論やスキル、教育手法を身につけていく内容で、12日間にわたってグループで山に



▲若泉の参加した  
野外指導者養成講習会テキスト

※WEAJ…  
Wilderness Education  
Assosiation Japan の略

入ります。当時の自分は初学者レベルだったため、正直なところ不安を抱えたままの受講でしたが、日を追うごとにお互いのパーソナリティが分かってくることで、チームとしてのパフォーマンスが高まっていく感覚や、自分自身の変化を実感し、理論と実践が結びついた経験になりました。

その過程で、理論は後から整理されて伝えられ、自分たちが取り組んでいたことが、こうした理論を背景としていたのだと知り、とても腑に落ちたことを今でも覚えています。だからこそ、実体験は重要であり、野外で教育を行うことの醍醐味なのだと感じました。

屋内でテントを張ったり、机の上でコンパスを読むことは比較的容易にできますが、自然環境の中では天候の変化があったり、計画通りに進まなかったりと、さまざまな問題が起こります。そうした状況の中で、自分がどのようにアプローチするか、チームにどのようにコミットメントするかを考えることが重要であり、その大切さを学ぶことができました。

そして、自分が現在行っている活動に活かそうと考えたときに、学んだ理論が、実はすでに組みこんでいた実践と重なってきた、という感覚を得たことが、正しい順序だったのではないかと思います。

#### 実際にどのようなプログラムに？

栗澤…では実際にセンターでの事業にその要素を取り入れるとしたら、どのようなプログラムになるのでしょうか。

若泉…センターでは、この冬に「人生の羅針盤キャンプ」というプログラムを企画していて、「冒険教育」の要素を取り入れています。

野外スキルを学んでもらいながら、実際にテントを担いで山に入り、縦走するプログラムを組み、子どもたちの心理的な変容など事業後に論文にまとめます。（文科省助成金プログラム）

冒険教育では、自然の中で起こる出来事そのものを課題として捉え、状況に応じて指導者がリーダーシップの取り方や難易度を調整していきます。自然の課題にどのように向き合うのか、チームとしてどのように対応していくのか、こうした点が成長の機会になると考えています。

例えば、道を間違えてしまったり、天候不順によって計画の変更を余儀なくされたり、チーム内でのコミュニケーションエラーが起きたりと、課題解決が求められる状況が生じます。そのような場面で、指導者が適切にグループへ介入することで、子どもたちの気づきや学びへとつなげていきます。

チームの中で自分がどのような役割として力を発揮できるのか、チームとして目標を達成するために何ができるのか。そうしたコミュニケーションや振り返りを通して、子どもたちの自己肯定感や挑戦しようとする気持ちを高めていくことこそが、冒険教育の本質だと思います。





## センターでの実践・リーダーとの関わり

栗澤…事業ごと、事業所ごとに相対している子どもや人が違い、使っている言葉こそ違うけれども、アンテナは似ているなと思いました。共同体の中にいる自分という捉え方や、子どもの声を聴くことだったり、生きていくために必要な力を養っているのですね。

若泉…「野外は社会の縮図」という言葉がありますが、社会や集団の中で起こりうる課題が、野外活動では短い時間の中で顕在化します。しかしそれはアウトドアの世界だけに限らず、普段の生活の中でも起きていることだと気づき、そのつながりがとても興味深いと感じます。

その中で、自分がどのように対処するのか、自分なりの価値観を持ちながら自己効力感を高めていくことが、大切なポイントだと考えています。

栗澤…若泉さんが研修などで学んできたことを実践に活かすとき、伝えていくのは子どもたちだけでなく、ボランティアリーダーさんたちにも伝わっていきそうですね。

若泉…センターで活動するうえで欠かせないボランティアリーダーたちとも、共通言語を持っていると、自分がどういう立場で動けるか、ということを考えられると思います。

受動的な関わりが多かったようなリーダーも、子どもにとつての課題があったときアプローチしてくれたり、みんなで話し合う場をもったり、活動に対する主体性が上がってくるタイミングがあります。

また、子どもたちにとって、関わる大人はいろいろな人がたくさんいるといいと思います。もし学校で良しとされない事柄でも、ここではOKとか、自然の環境下なら許されるとか、その要素の一つとして人の多さも大事で、大人の性格も様々で、いろいろな価値観があつていいと思つています。同じ方向性のリーダーばかりだったら、多分子どもたちも面白くないですね。

僕が入職した理由にもなりますが、学生時代、教職課程を履修し、センターでボランティアリーダーをしながら、ここでの活動を重ねるうちに、「自然が好き」で「教育に関わりたい」と思つたときに、教育と自然の掛け合わせた、自分の好きな教育のカタチがここにありました。学校教育の土壌ではなく、別の立場で教育に携わりたいという気持ちに至つたのも、いろいろな関わりが子どもたちの育ちにきつと良い影響があると思つたからで、今、実践の中にいます。

栗澤…ありがとうございます！



▲内に秘めた熱い想いを語る職員・若泉



▲「勉強になりました！」職員・栗澤

## 【荒井さんからの講評】

「なぜ冒険教育なんだろう」という栗澤雅富美さんの問いかけ（突っ込み）、それに対する若泉将貴さんの応答。今回も対談を横で聞かせていただきながら、そのやりとりのおもしろさを感じました。

若泉さんご自身が学校の教員ではなく、センター職員を仕事として選んだ理由を、「いろいろな関わりが子どもたちの育ちにきつと良い影響を及ぼすと思つたから」と語っておられたことは象徴的でした。

この「いろいろな関わり」とは、自然の中で活動をすれば生じる課題に対して、参加メンバーがそれぞれの力を発揮しあい、解決していくプロセスをさしているのだらうと思います。そしてまた、一人ひとりの子どもの声を聴くことが土台になつているのだと思います。

さらにこれらのことからは、「他者の中で人が育つ力をつける」という栗澤さんのことばに凝縮されていると思ひました。

そんなことばをさらつと言ひあえる職員のみなさんは、すごいなあと思ひました。忙しくとも、定期的に職員会議で話し合いを重ねているからこそできることなのだろうとも思ひました。

社会教育協会より  
【社会教育3月号】  
報告記事のとおり、去る11月15日に「社会教育協会創立100周年記念のつどい」、11月16日・24日に「100周年記念イベント」を開催し、多くの方にご来場いただきました。また、100周年祝いに「寄付をお寄せいただいた方もいらつしやいました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。」

ここでは、ご来場の皆様にお配りした100周年記念誌について少しご紹介したいと思います。社会教育協会の歴史を一冊にまとめた記録がこれまでほとんどなかったことから、協会について広く紹介するためのツールにしたいという思いもあり、刊行したものです。主な内容としては、協会の歴史、協会の事業、そしてつながりのある皆様からいただいた100のメッセージという構成になつています。

協会の歴史については、創立前の時代も含めて、戦前のあゆみを重めに構成しました。初代理事長を務めた民法学者の穂積重遠は、2024年に「天で放送された「虎に翼」で「穂高重親」として描かれた人物のモデルであり、協会創立と同時期に、実際に女性法律家の育成に尽力したことも知られるようになりました。そうした様々な分野の方々の支えが協会100年の歴史を形づくつています。

また、ひの社会教育センター建設の経緯がわかる資料として、日野市の広報に掲載された、当時の有山<sup>なかし</sup>市長のコメントを転載させていただきます。センター建設に懸けた思いをぜひ一読いただければと思います。

現在、記念誌はご希望の方に窓口にて無料で配布していますので、ご希望の方はひの社会教育センターまたは社会教育協会事務局までご連絡ください。

星野一人（公財）社会教育協会事務局長



## 【公益財団法人社会教育協会 100 周年記念イベント・開催報告】

1925 年、設立した公益財団法人社会教育協会は、今年 100 周年を迎え、11 月 15・16・24 日の 3 日間、2 週にわたり、記念イベントを催しました。

### 記念のつどい

◎式典～オープニング・三好のぶちか氏 津軽三味線演奏  
主催・来賓挨拶  
協会 100 年のあゆみ紹介など

### ◎記念講演

「これからの社会教育～次なる 100 年を展望して～」  
前川喜平氏  
(現代教育行政研究会代表、元文部科学事務次官)  
・学習権とはどんな人権か？生涯学習と学校教育と社会教育。  
100 年後の未来へ希望をつなぐお話をいただきました。

### ◎記念パーティー

各関係機関、団体代表者様、元職員など招待し、シンガーソングライターの SIO さんに歌っていただき、にぎやかな会となりました。

### 記念イベント

#### ◎平和を考える映画会

『荒野に希望の灯をともし』& 監督トークイベント

監督・谷津賢二氏 ジャーナリスト・高世仁氏

・谷津監督と高世さんのトークは、中村哲さんの温かいお人柄が伝わるものでした。

#### ◎人生を考える映画会

『サウナのあるところ』& ラウラさんのトークイベント

ラウラ・コピロウ氏 (フィンランド専門家)

・幸福度の高いフィンランドのお話。

「幸せはマインドセット」という言葉が印象的でした。



#### ◎未来の 100 年を考えるトークイベント

「自分で決められる人生」

澤渡夏代ブランド氏 (デンマーク在住・執筆・講演家)

武田信子氏 (一般社団法人ジェイス代表理事、臨床心理士)

・イベントの最後を飾る、未来を語るトークイベント。自分で決める自分の人生を歩むため、何ができるか考える会になりました。

## 【きっかけは『青空たいそう』—ひろがる自主活動の輪】インタビューしました

センターでは、日野市からの受託事業で、今から 4 年前のコロナ禍に、『ちょっとお散歩 & 青空たいそう』という事業を開催していました。

コロナ禍で、運動する機会が減ってしまった市民のみなさんの出かける機会、体を動かすきっかけづくりのひとつとして、市内各所で、『ちょっと』出掛ければ参加できるプログラムを行うものでした。住宅地にある公園に、体操指導者が出掛けて行って、体を動かした後はお花のプレゼントもあり、継続的にご参加される方も多く、好評をいただいていた。

『青空たいそう』のひとつで、テニスコートで、スポーツクラブのプロコーチが指導してくれる会場がありました。その参加者だった方の中で、事業が終わった今も、集まってサークルとして活動されている皆さんにお話を伺いました。

2 ヶ月ほど続いた、『青空たいそう』最終日、せっかく顔見知りも出来たし、これからもテニスをしたいという数人で連絡先を交換し、『七生テニス同好会』というサークルを立ち上げました。それから週 2 回ほどコートを借りて、みんなで汗を流しています。

当時のことや、良かったことなど、お話を伺うことが出来ました。



・初心者や久しぶりにテニスをする人も歓迎、というなお誘いが市報に載っていたので、安心して参加できた

・土産のお花にも工夫が凝らされていて、今回はグリーンで統一されているな、なんて思うと、次回はなんだろうという楽しみもできた

・メンバー同士の年の差も、テニスがつないでくれた

ここまで続けてこられた秘訣は？

・最初に、「せっかくだから連絡先を交換しよう」と声を掛けてくれた方の行動力！

・メンバーが集まらない日、たった 2 人でもコートをキャンセルせず続けてきたこと

・ほかに自分のテニス仲間がいる方が、このサークルにお仲間を紹介してくれて、仲間が増えてきた！

最後にこれからも元気に続けていきたいというお話をいただきました。



▲すっかり幽霊部員のインタビュアー野口も、実はサークル創設メンバー。今回は皆さんの忘年会にお邪魔しました。

## ひの社会教育センターからのご案内



賛助会へのご協力ありがとうございます ★順不同・敬称略

### ①個人会員 1 口 1,000 円

工藤多美子 5 口 熊谷亜由美 5 口 新保敦子 1 口

澤渡夏代 Brandt 4 口 藤巻誠 5 口 赤塚堯 1 口

松谷照子 3 口 佐藤勢津子 5 口 板家隆 5 口

宮本法子 10 口 板家守夫 5 口 柿田雅子

### ②団体会員 1 口 5,000 円

いにしえ体操会 1 口 (株)アイキャン 2 口

四季の風 2 口 クリーニングデイ 2 口



### 【2026 年 新春のつどい ご案内】

ひの社会教育センターでは下記の日程で「新春のつどい」を開催します。日頃よりご利用いただいている皆様をはじめ、多くの方のご参加をお待ちしております。

日時：2026 年 1 月 18 日(日)11:00～12:00

会場：Tomorrow PLAZA 2 階 TreeHALL

参加費：1,000 円 (喫茶をご用意しております)



### 〈スマイルタウンの感想募集について〉

100 周年記念イベントで顔を合わせた、元センター職員の諸先輩方に、「いつもスマイルタウン読んでるよ」とお声掛けいただき、励みになりました。

今年度継続的にご意見・感想を募集しています。

直接、窓口でもお声掛けいただいてもありがたいです！

